

成績概要書 (2016年1月作成)

研究課題：いちご新品種候補「空知35号」(213301、213351、213300)

担当部署：花・野菜技術センター 研究部 花き野菜グループ、生産環境グループ

制度区分：経常研究

研究期間：2008～2015年度(平成20～27年度)

キーワード：いちご、大果、多収、無加温半促成作型

1. 特性一覧表

系統名：「空知35号」 組合せ：福岡S6号/けんたろう

特性： 長所1 大果である。

2 規格内収量がやや多い。

短所1 収穫初期の奇形果収量が多い。

調査場所	花・野菜技術センター (育成場)		道南農業試験場 (地域適応性検定)		地域適応性検定現地 (3町のべ6試験)	
作型	無加温半促成		無加温半促成		無加温半促成	
調査年次	平成25～27年		平成25～26年		平成25～27年	
品種・系統名	空知35号		けんたろう		けんたろう	
項目	空知35号	けんたろう (標準品種)	空知35号	けんたろう (標準品種)	空知35号	けんたろう (標準品種)
開花始期(月/日)	4/17	4/16	4/11	4/9	—	—
収穫始期(月/日)	5/21	5/20	5/11	5/11	5/25	5/23
葉数(枚) ¹⁾	33.6	35.7	27.1	32.5	29.8	31.6
草丈(cm) ¹⁾	56.4	45.2	50.4	45.6	55.8	48.5
葉柄長(cm) ¹⁾	43.1	34.0	37.5	34.1	41.7	35.8
小葉身長(cm) ¹⁾	13.3	11.1	12.9	11.5	14.1	12.7
果房数(本)	6.5	8.8	9.9	12.6	4.3	6.3
草姿	中間	中間	—	—	—	—
規格内収量(kg/10a)	2164	1826	2330	2397	2271	1849
対標準品種比(%)	118	100	97	100	123	100
奇形果収量(kg/10a)	289	167	80	100	—	—
小果収量(kg/10a)	239	680	407	882	—	—
規格内率(%) ²⁾	74.5	65.0	81.6	68.4	80.4	66.3
総収穫果数(千個/10a)	205	326	274	413	194	342
規格内果数(千個/10a)	130	141	175	198	137	151
規格内平均一果重(g)	16.7	12.7	13.2	11.9	18.1	12.4
対標準品種比(%)	131	100	111	100	146	100
L規格以上割合(%) ³⁾	61.4	27.2	—	—	—	—
果形	短円錐	円錐	短円錐	円錐	短円錐	円錐
果皮色 ⁴⁾	鮮橙赤～明橙赤	鮮橙赤	やや淡赤	赤～やや淡赤	橙赤	橙赤
外観総合 ⁵⁾	3.0	3.0	3.3	3.0	3.4	3.0
空洞 ⁶⁾	3.0	4.0	3.4	4.2	3.0	4.3
Brix(%)	8.8	9.4	9.0	9.4	9.3	9.4
酸度(%)	0.45	0.45	0.51	0.51	—	—
食味総合 ⁵⁾	3.0	3.0	3.1	3.0	3.1	3.0
日持ち性 ⁷⁾	3.8	3.3	3.3	3.0	3.2	3.0
疫病抵抗性	中	中	—	—	—	—
萎黄病抵抗性	中	弱	—	—	—	—
萎凋病抵抗性	中	弱	—	—	—	—
休眠性 ⁸⁾	800時間	1000時間	—	—	—	—

1) 収穫期の生育 2) 規格内収量/総収量×100 3) 正形果における15g以上の果実の収量割合 4) 育成場は日本園芸植物標準色票により調査、地域適応性検定は「濃赤～赤～やや淡赤～淡赤～淡橙」、地域適応性検定現地は「暗赤、濃赤、赤、橙赤、橙、淡橙、桃白、黄白など」を基準に調査 5) 5：良～3：標準品種並～1：不良 6) 5：無～1：大 7) 育成場は日持ち日数(日)、その他は5：良～3：標準品種並～1：不良 8) 休眠覚醒に必要な低温(5℃以下)遭遇時間

2. 「空知 35 号」の特記すべき特徴

規格内平均一果重が「けんたろう」対比 131%と大果であり、L 規格以上の割合が高い。総収穫果数は「けんたろう」よりも少ないが、規格内収量が「けんたろう」対比 118%とやや多い。

3. 優良品種に採用しようとする理由

北海道のいちご生産において、主に 4～7 月に地場消費用として供給される春どりいちごは重要な地位を占めている。無加温半促成作型の主要品種「けんたろう」は、その果実品質の良さから市場の評価が高い。一方、収量性が不十分であることが指摘されており、大果性や収穫期後半の小玉化の改善を求める声が強い。また、産地では生産者の高齢化が進んでおり、収穫作業の省力化が課題となっている。

「空知 35 号」は、無加温半促成作型において「けんたろう」に比べ大果で、規格内収量がやや多い。また、収穫期後半においても一果重が重く、規格内率が高い。大果により、生食用で求められる高単価な規格（L 以上）の割合が高く、所得の向上が期待できる。さらに、やや多収でありながら総収穫果数が「けんたろう」より少なく、収穫作業の省力化も見込まれる。一方、果形が短円錐、果皮色は鮮橙赤～明橙赤で「けんたろう」と果実外観が異なるが、果実外観および食味について「けんたろう」と総合的に同等である。また、いちご生産に大きな被害を与えている疫病、萎黄病、萎凋病の土壌病害に対して、「けんたろう」と同等以上の抵抗性を有する。

以上のことから、「空知 35 号」は市場出荷を中心として、収穫作業の省力化を目指す産地において「けんたろう」に置き換わることで、春季の道産いちごの安定供給に寄与する。

4. 普及対象地域および普及見込み面積

普及対象地域：全道のいちご栽培地域

普及見込み面積：18ha（春どり栽培作付面積 35ha の 50%）

5. 保有種苗量

ポット苗：61 株、茎頂培養苗（in vitro）：1 株

6. 栽培上の注意

1) 本成績は無加温半促成作型におけるものである。



写真. 果実外観

左：「空知 35 号」、右：「けんたろう」
（平成 25 年 6 月 8 日、花・野菜技術センター）